

Because it is there...

なぜなら、そこに山があるから

文◎寺倉 力

Text by Chikara Terakura

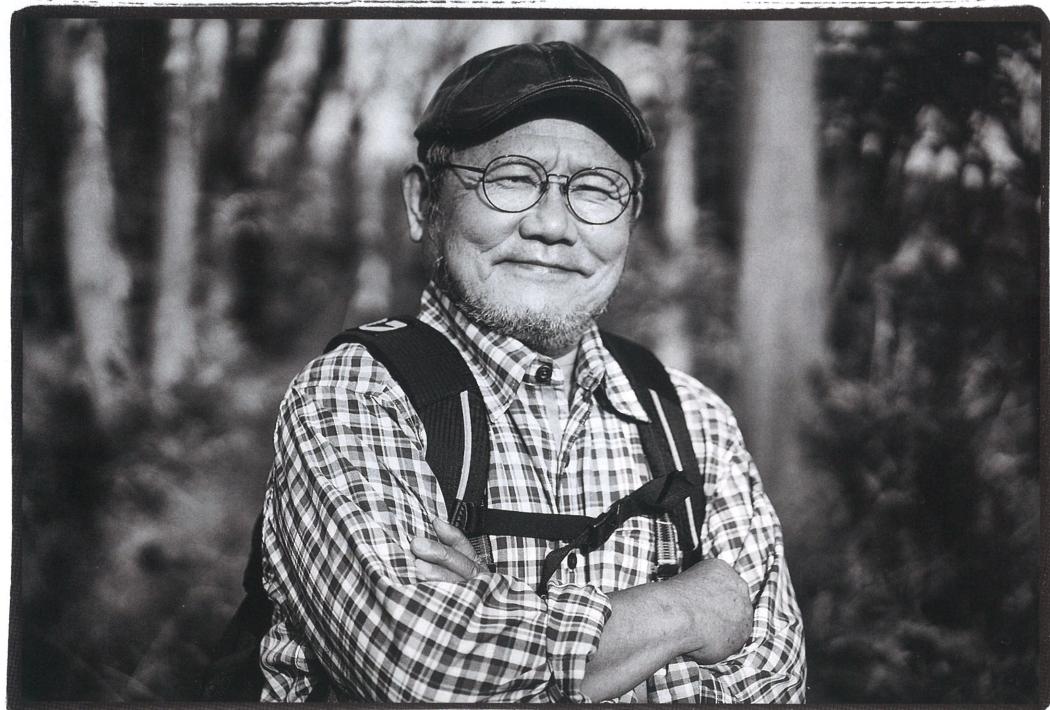
写真◎柏倉陽介

Photo by Yosuke Kashiwakura

vol.63

国井治

Osamu Kunii



登山道具を扱う会社として30年の歴史があるマジックマウンテンを率いるのは
いまでは伝説となった登山やアウトドアの銘品を日本に紹介してきた張本人。
その仕事を支えてきたのは、厳しい山々に挑んできたアルピニストとしての独自の感性と
冒険心を尊重するアルパインクライマーとしての価値観だった。

昨

年、創業30周年を迎えたマジックマウンテンは、登山用具の輸入販売やオリジナル用具で知られる会社。その創業者であり社長が国井治である。

社員数20名という小規模な陣容ながら、ランポンやアックス、ヘルメットで有名な「グリベル」やクライミングロープの「エーデルリッド」、スノーセイフティギアの「オルトボックス」など、世界的に高い評価を集め信頼のコ

アブランドを長く扱ってきた。

その理由は、社長の国井を含めた商品バイヤー全員がヒマラヤ経験者で、社員のほとんどがクライマーでもあることと無縁ではない。なぜなら、グリベルの

1944年、東京都生まれ。1962年に登歩溪流会に入会後、冬季登攀を含めて国内の岩場で実績を重ね、1973年エベレスト南壁隊、1977年ヌブツェ北西峰初登頂、1983年ナンガバルバット南面に遠征。また、大倉スポーツなどで登山用具の輸入販売を手がけ、1984年(株)マジックマウンテンを設立し、代表取締役

本拠地がモンブランの麓のクールマイユールにあることからわかるように、海外のクライミングギアメーカーの多くは、クライマーの会社だつたからだ。クライマーが作った登山道具をクライマーが使う。それが健全なアウトドアビジネスのあり方である。

国井は高校山岳部で本格的な登山を始めて以来、社会人山岳会に入会して国内で冬季登攀を含む多くの実績を重ね、エベレスト南壁



「これまでの経験で世の中に尽くしなさい」と。
あれはまさに、神の啓示でした。

3級上に明治大学の山岳部に入
った先輩がいて、相当刺激を受け
ましたよ。この人が植村直己さん
と同期で、一緒にゴジュンバ・カ
ンに遠征しているんです。そのこ
ろには、ヒマラヤ登山が自分の目
標になつていました。とはいって
も親のスネをかじることもできな
いし、山の道具も山に行くにもす
べて自分でアルバイトしたお金だ

「風雪のビバーク」に影響されたことで、松濤の所属していた登歩溪流会を選んだのだつた。
それからは週末を利用して谷川岳や八ヶ岳、穂高岳や南アルプスの岩場に通つて実績を重ねていくようになる。



のだと。スコットやアムンゼンの探検記とか、京都大学学士山岳会の今西錦司さんや西堀栄三郎さんとか、そんな本ばかり読んでいたから偏ったのかな（笑）

駅から歩き始めて6合目くらいで雪上訓練です。鍛えられますよね。八ヶ岳では硫黄岳のコルにテントを張つて、赤岳や天狗岳を往復。まずは歩くのが基本でしたから、そうやって冬山に慣れていきました。岩登りは指導者がいなくてできなかつたけど、個人的に誰かに教わっていた人はいました。三つ峠の岩場から直接登校してきた先輩なんかもいてね、豪快な時代で

つた。だから、最短距離でヒマラヤに行くには、いち早く社会に出で働くほうがいい。それで高校卒業してから就職して、社会入山岳会に入つたんです。

一十曜日がまだ休みいやなかつた時代です。土曜は『半ドン』と言つて、仕事は午前中だから、山の格好をして登山靴を履いて会社に



アルパインクライミングは廃れてほしくない。 その気持ちは強いです。

行き、夜の鈍行に乗って明け方駅に着き、一睡もしないで登る。帰りも夜行で月曜の朝に東京に着いて、なんとか家まで戻つて着替えで出勤。そんなことの繰り返しです。とにかくキツかったですよ。それでも体力があつたんですね。当時はまだいい道具も少なかつたし、高くて買えない時代。月給が1万2800円で、登山靴が2万も3万もするんですから、簡単には買えませんよね。20歳の冬に谷川岳一ノ倉沢の滝沢リッジを登つたんですが、山道具屋にはナイロン製品もなく、事務員が使う腕カバーを油に漬けて防水かけて、それをスパツツ代わりに穿いて登つたくらいですよ。

それだけに、山道具には飢えていましたね。よく停滞日にテントでいろんな話をしますよね。いまでもそうかもしれません、必ず道具談義になるんですね。そうした仲間たちの話は、山道具に関わる仕事に就いたときに役立ちました

た。海外に出かけて製品を見ても、クライマーの目で見て、それが日本と日本人に合うかどうかと考えるようになつていきましたから」

*

証券会社に勤めていた国井は、ヨーロッパアルプスに挑戦するために会社を退職する。当時はまだ渡欧するだけでもたいへんな時代だったのだ。だが、直前のトレーニングで向かつた雪の穗高岳で後輩が遭難し、国井自身も凍傷で40日間ほど入院する。それでヨーロッパ行きをキャンセルせざるを得なくなり、遠征貯金は治療代で底をつく。再びゼロからのやり直し

で、再就職に選んだのがドロミテーとして活躍するようになる。

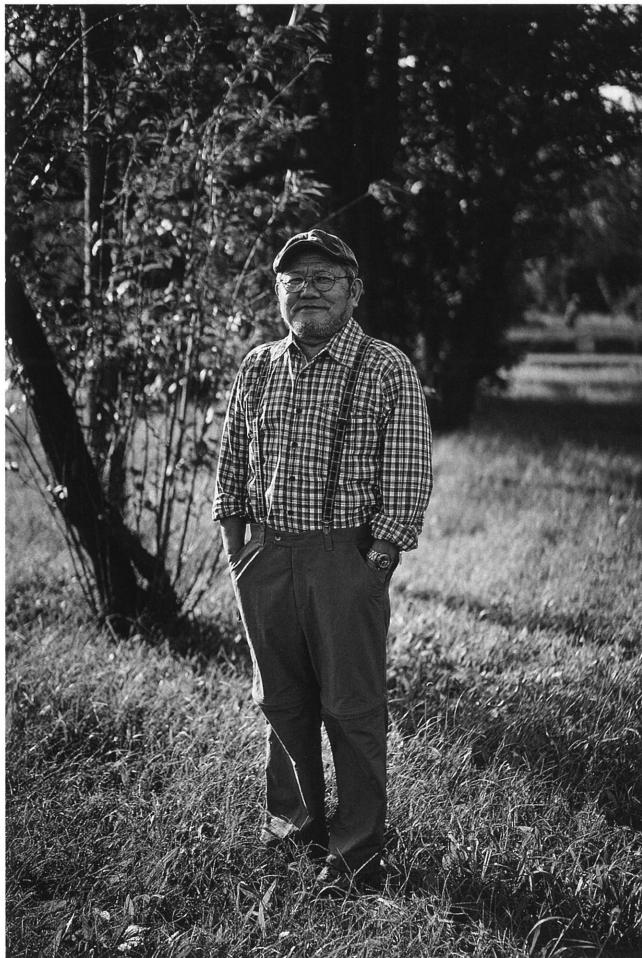
当時、国井によつて日本初上陸を果たした製品を挙げてみると、トロールのウイランス・シットハ



一ネス、EB シューズ、ノースケープの肌着とパイルジャケットなど、70 年代後半から 80 年代にかけて国内を席巻したクライミング用具が多い。また、こうしたヨーロッパ製品だけではなく、シエラデザインズのマウンテンパーク「60/40」シリーズや、ケルティックのバックパック、ソレルのブーツなど、いまでは伝説にもなつてゐる北米のアウトドアブランドを最初に手がけたのも国井だつた。

このあたり、硬派なアルパインクライマーながら北米のバックパッキング文化にも理解を示す国井の柔軟な発想がみてとれる。マジックマウンテンを創業した後には、自社開発の登山用具も多く手がけており、たとえば、いまでは多くのテントでみられる受け口の片方を袋縫いにしたポールスリーブは国井のアイデアである。

*



雪崩で負った腹部の傷跡の影響でベルトができず、以来、サスペンダーがトレードマーク

けれどもこの世界、ブランドの変遷が激しくてね。ブランド力がなくなつたり、輸入代理店が変わつたりを繰り返してきました。だから、ウチの会社が 30 年というのは長いほうじゃないですか。続けることが大事ですね。金

一ネス、EB シューズ、ノースケープの肌着とパイルジャケットなど、70 年代後半から 80 年代にかけて国内を席巻したクライミング用具が多い。また、こうしたヨーロッパ製品だけではなく、シエラデザインズのマウンテンパーク「60/40」シリーズや、ケルティックのバックパック、ソレルのブーツなど、いまでは伝説にもなつてゐる北米のアウトドアブランドを最初に手がけたのも国井だつた。

このあたり、硬派なアルパインクライマーながら北米のバックパッキング文化にも理解を示す国井の柔軟な発想がみてとれる。マジックマウンテンを創業した後には、自社開発の登山用具も多く手がけており、たとえば、いまでは多くのテントでみられる受け口の片方を袋縫いにしたポールスリーブは国井のアイデアである。

*

「世界の登山用具メーカーは、社長自らクライマーですから、自然と仲良くなります。日本では珍しかつたけど、外国では当たり前。逆に山を知らないければ、できない仕事ですからね。

儲けが僕の目的ではないし、小規模だからできるんですけどね。失敗も多いけど、成功したときの満足度は大きいですよ。売れるつてことは、登山者に評価されたといふことですからね。その喜びが忘れられないから続けますよね。

独立してからアメリカのプランドを扱わないのは、アメリカンキヤピタリズム、つまり会社を売つたり買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

の創業者、ディック・ケルティさんは僕の父親くらいの世代なんですが、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独

立したときには親身になつてアドバイスしてくれましてね。その彼も、晩年は会社が買収されて寂しそうでしたね。

アメリカは売り上げ至上主義で、会社を買つたり売つたり、その繰り返しじゃないですか。ヨーロッパでもそういう部分はあるけれど、ウチと長い付き合いの会社はみんな泥臭いものですよ。契約書すらなり買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

は死ぬまでやる、というと冗談でね。グリベルなんかも『お前に任せた』って言うだけですよ。人間同士の付き合い。そういうべきだし、だから背信なんてできないし、信頼されているから、がんばりますよね。

く、ジエントルマン契約つてやつてね。グリベルなんかも『お前に任せた』って言うだけですよ。人間同士の付き合い。そういうべきだしさく、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独り買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

の創業者、ディック・ケルティさんは僕の父親くらいの世代なんですが、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独り買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

は死ぬまでやる、というと冗談でね。グリベルなんかも『お前に任せた』って言うだけですよ。人間同士の付き合い。そういうべきだしさく、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独り買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

は死ぬまでやる、というと冗談でね。グリベルなんかも『お前に任せた』って言うだけですよ。人間同士の付き合い。そういうべきだしさく、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独り買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ

は死ぬまでやる、というと冗談でね。グリベルなんかも『お前に任せた』って言うだけですよ。人間同士の付き合い。そういうべきだしさく、山道具で生計を立てる人として、彼のライフスタイルには大きな影響を受けました。僕が独り買つたりするアメリカ的資本主義が嫌いなんですよ。ケルティ